

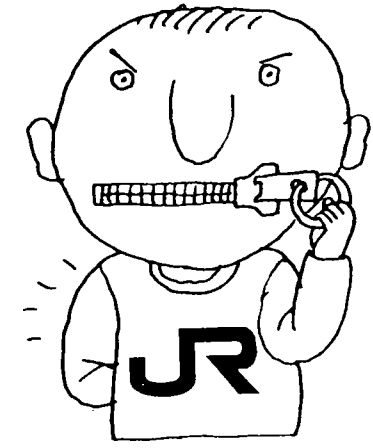
日刊 動労千葉

87. 9. 30
No. 2666

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

10・3千葉駅街宣総行動へ 全支部から総決起しよう！



「新生JR」の姿は、ひと皮むけばまさに奴隷会社だ。命令と服従が全てを支配し、当局にひと言でも異をとをえる者には、徹底的な差別と選別がまちうけている。ある日突然辞令の紙一枚で強制配転され、出向においだされる。当局の意にそわぬというだけで、一時金カットや業務停止がおこなわれ、それどころか、貨車解体の現場でおきたように、鉛中毒の危険性について質問しただけで、賃金がカットされる。JRは、自由にもいえないぬ独裁社会である。アゴヒモや、カーテンや



「小集団活動」のただ働きや、年間四五万円ノルマが、企業への忠誠度をはかる「踏み絵」なのである。そして、行きつく所は、鉄道労連革命マルと結託した徹底的な労働

組合潰しである。われわれは、こんな強権的労働支配を断じて許す訳にはいかない。清算事業団の仲間、強制配転された仲間、不当解雇された仲間を奪い返すまで、奴隷社会IIJRの実態を全社会的に暴きだし、おいつめなければいけない。うわべだけを綺麗に飾りたて、上っつらだけの「サービス」で、「国鉄よ改革」が成功したかのような虚構をつくりだそうとしているJR当局は、真の姿が暴き出されることを一番恐れているのだ。十月三日の統一行動を中心に、全県下で、総行動をまきおこし、JR当局をおいつめよう。

当局は、動労千葉のスト権の圧倒的な確立によって、強制出向攻撃につまづいてしまっている。新たな動労千葉破壊の策動を画策している。九月の出向攻撃を粉碎し、十月をも粉碎（鉄道労連六名が発令）した力で、十月出向（十月事前通知）を粉碎しよう。

十・三街宣総行動は、スト権確立以降の新たな闘いへの第一歩である。JR当局は強制出向をやめる！ 解雇者、清算事業団の仲間、強制配転者を原職に戻せ！ 組合潰し、強権的労働支配を粉碎するぞ！ 全支部で総行動に起とう。全力で十・三千葉駅街宣へ結集しよう。

清算事業団・強制配転した仲間をただちに原職に戻せ

無人駅の仲間を ただちに職場に戻せ！

佐原、成東、木更津、一の宮の各駅に配置され、無人駅においやられて隔離された十二名の仲間たち（動労千葉八名、国労四名）は、人活センター以来すでに一年三ヶ月にもおよぶ強制配転、隔離就労が続いている。十二名全員が動労千葉、国労の中心的活動家である。JR当局は、組合を潰すためには手段を選ばないのだ。労働者を人とも思わず、徹底的にいたぶり、いじめつけて、精神的に叩きのめすというやり方である。これが宣伝されている「明るい職場」の実態だ。「生まれ変わった」といいたいが、差別支配だけは、何ら変わっていないのだ。当局よ、無人駅の仲間をただちに原職に戻せ！

